



13  
3416  
43

# 八編み卷之内

松野  
猪口院

南總里見八犬傳第八輯卷之四下套

東都 曲亭主人編次

第八回 萩野井返命一ノハ 假刀舊主が還る

三犬士再會して宿因裏て話表を  
再說萩野井二郎。既に茶店に來會する。祝の家臣们は對面して姓名を告  
來由を示して某の主君より兩東使が隸なる。副使がひどい。今朝も勞をもつて遅く旅  
舎を出るが、路の程太く後れ。締の始末を知らずつて、辛ひと證人あり。故に笛様  
の様と今來學路にて金瘡人以兒人を遣ひる。他が報方頃と迷ゆる。演知と  
某候てひや各々心安らべ。權且這地に逗留と。越後と武藏人を走らし。主君井ふ  
千葉大石家。這凶變。正口稟して進退。下知を由べ。勿論炎暑の比。我が東使  
主從の亡骸。柩を斂めて程近に寺院預け措す。欲を這義と相計ひ。氣が。氣

大家疑心釋て然る事も少す。年高一個の乞兒が主從四五名皆數あれ意外の事も  
ある。とぞくふ呆れあらひの事より。浩處が三郎が途不送せ。伴當のこそ似見企駆て來  
ければ三郎則督見企駆。又御武門の轂され。ち折の始末を尋ね。那痴者何う  
か。その名を呼んでおき。向が似見企頭を抬げ。さばは那乞兒奴がみる名告り  
えられ。落葉打刀と信と見て。父が轂され。ち折。紛失せ。と傳ゆ。小篠落葉並に兩刀を  
今初てたうのを馬加とも名告れ。逆臣大記常武の親族ふそあらんを。余  
らも是冤家は餘類逃れせ。と略記。東人御武駭怒て。原来這奴の毎年舞  
子化で俺先代の親子從類。すく。轂果て逃亡す。大阪毛野であら。とられ  
まつて。御武撃を俺们生。痛瘡と肩なる珍重中庸論語ふ絶。太婆ふ  
き。後心も冥闇。その餘の覚は。且那乞兒の年齢十七八年。寝起れ。寝るも  
うな。やさぐ。うな。と。容止。優質見るべ美く。女子かく。不まや。形貌ふ似け。力量剽姚。今牛若

とありひて。神変不思議の武藝云ち。倭夷東人の猜せ。如豫嘆。あらむ。且聞  
野と狹ひ。假少女の大坂ぶり。ひんと。よ。大家又駿びて。以て。目と合ひ。登時荻  
野井三郎。祝の家臣うち對ひ。那痴者の更の趣喫驗。既に分明。并空敵金を  
元。是をすま。暮春。ふ程。よし。極の。と。安。と。禿。め。と。あ。と。泊。祝の  
家臣。深澤と下の諒方。長と招て。緯。徳。と。吩咐。却三郎。よ。答。と。目。今  
等を。如。極の。村長。執計。ひ。ひ。日。暮春。と。も。成。る。あ。舟。忽。諸。ま。が。行。  
刀傷人の療養。下の諒方の驛長。手の。美。を。示。ひ。と。あ。旅亭。よ。ね。と。度。あ。ひ。  
那勝力の。ひ。ど。遲滞。及。便。冥。あ。ん。あ。諒。任。せ。多。と。と。ま。三。郎。異。諒。  
及。全。そ。寛。は。便。利。左。も。右。も。言。せ。あ。と。應。て。深。澤。き。村。長。と。驛。長。们。を。勞。ひ  
け。元。よ。う。祝。の。家。臣。の。件。の。更。の。趣。茶。店。の。主。人。故。老。の。莊。客。通。て。這。里。取。合。い  
わ。尾。駄。寺。遣。ま。と。く。う。成。と。生。持。て。三。郎。と。兵。侶。の。駆。て。茶。店。を。立。ま。く。

却三郎が別告を宿所を投て還りゆる。當下御武豊実の伴當が肩違外  
留りて手の屍骸と成りありえ似見合と茶店の板戸を乗せて元と昇りある。這他  
御武豊実の腰刀を推入鎧櫃を扛擔。荻野井三郎を後にして旅亭を投ひそむ。余程本  
萩野井三郎が下の諫方より驛長小案内をされ路次をうなでて主僕旅舎を着く。  
夏の日越の草木抜け。金瘡人の療治が本驛より醫生が来て似見合せ瘡と縫合  
じま。その時ふも三郎が豊実と御武の鎧櫃をうちもかく。那首級を檢する故の隨吏  
あられ。竊か心と安ぐ。又御武と豊実の腰刀は若當黒を持せると共に此彼七口ある。  
一箇も紛失せぬ。その中で小袋條落葉本の兩刀と小文書の腰刀は兩東使の腰を跨る  
と御武豊実の伴當物。三郎是を預りて臂近を措さる。まだ件の二口の  
刀は御小柱介小文書。竊か合替され。真の小袋條落葉本など三郎の初より件の  
刀をくわへた。又旅路に赴くも兩東使が忌嫌れて推亞でくとも。旅舎を俱みやう

あが刀は真偽と知るよりも。片貝へ注進状。首級并れ兩東使。齋一と二隻の  
刀。別義字と寫らけ。有憲が三郎が次の日。晚よ。その身の俱た。若黨、  
奴隸一名を従て注進の為越後遣し。又豊実と御武の伴當の心利くもの三名。小書  
翰と齋一。武藏返し。大塚石濱の両城へ。這凶變と報す。然がて東使主僕の亡骸。  
當夜深澤の村長と茶店の主人が柩を斂ひ。近辺寺院を遣し。權且那里を寄せ  
ある。茶店より茶店を送り。兩東使の伴當も。次の日下の諫方を聚り合ふ。件のうと  
三郎が轍を共侶。逗留を。旅宿の徒然合をあべ。併而一句立ちと壁を程。大塚石  
濱の両城より。士卒此彼十餘名。各々君命を從ひ。嚮れ。荻野井三郎を遣し。豈  
實御武の伴當。あて下の諫方より。荻野井が旅亭を至り。對面と君命を演。非常役  
義を勞ひて。却豊実御武主僕の亡骸。這地の道場を瘞びく。恙るに伴當と武  
器行李を受取。武藏へ還らむ。が三郎のまことの意を憲せば。曩裏よ。般大刀自ら。

豊実御武を齎く。二大士の首級の。小篠落葉の名刀と小文五口の刀を以て。筒様  
筒様と説示して。今這東西と各位よ。遞す。ある。せよ。宜一か。人。不吉の思意を及び  
ぞ。是より片貝へ。も。日注進を。う。が。遠く。だ。と。そ。の。左。右。あ。ん。且。ま。の。足。等。玉  
へ。と。理。う。を。舒。て。留。め。大石千葉の士卒们。の。口。得。く。共。と。追。出。し。諏。方。祝。宿。宿。所。  
赴。那。日。御。武。们。が。枉。死。の。折。厄。會。小。預。り。欲。び。と。述。て。が。る。那。深。澤。多。村。長。許。立  
寄。そ。則。長。と。案。内。ふ。る。御。武。豊。実。主。從。の。柩。を。寄。せ。る。某。院。到。り。く。住。持。小。來  
意。演。て。件。の。主。僕。と。埋。葬。を。死。て。一。旬。有。餘。と。歷。る。炎。暑。暑。む。亡。骸。腐。爛。く。臭  
氣。畜。と。向。ぐ。方。れ。主。僕。は。病。と。檢。考。ま。及。ば。寺。六。此。銀。と。布。施。と。諏。方。旅。亭。から  
來。から。左。右。も。程。ふ。片。貝。へ。遣。る。萩。野。井。三。郎。が。伴。當。と。共。侶。の。執。事。由。充。は。脚。力  
到。來。七。大。刀。自。御。前。の。下。知。狀。あ。つ。三。郎。元。と。受。戴。と。諱。て。園。き。ふ。豊。実。御。武。枉。死。の  
え。八。莊。介。小。文。五。口。兩。箇。の。首。級。笄。と。小。篠。落。葉。二。口。の。刀。と。萩。野。井。三。郎。は。預。け。遣。さ。

そ。尼。武。藏。の。西。北。大。石。千。葉。贈。や。這。他。の。夕。懲。と。最。詳。と。載。え。五。三。郎  
既。を。意。を。而。千。葉。大。石。兩。家。の。士。卒。件。の。と。演。修。て。祝。宿。所。使。と。遣。し。武  
藏。赴。く。と。報。て。兩。家。の。士。卒。と。共。侶。ふ。次。の。日。旅。亭。を。ち。出。け。る。時。貸。介。づ。金。瘞。  
ゆ。で。那。二。天。あ。假。首。級。御。井。莊。介。小。文。五。口。瓶。酒。と。食。葉。温。湯。と。入。易。乞。け。る。  
堪。也。す。れ。也。路。不。參。入。り。な。い。づ。也。猶。す。休。お。昇。し。く。三。郎。が。肚。裏。勞。と。功。を。た  
り。と。少。少。の。少。那。伴。當。們。を。守。寧。よ。誠。り。そ。連。る。路。次。と。の。そ。が。七。月。の。初。幹。武。藏  
州。豐。嶋。郡。大。塚。の。城。ふ。來。着。を。あ。早。千。葉。は。士。卒。們。ふ。と。王。君。ふ。安。え。わ。そ。萩。野。井。成  
待。ん。と。御。武。が。伴。當。と。俱。と。石。濱。へ。還。り。け。る。程。ふ。萩。野。井。三。郎。が。大。塚。の。城。ふ。着。を。が。  
仁。田。山。並。五。山。迎。て。對。面。と。長。途。勞。と。歎。待。態。大。か。る。也。登。時。三。郎。の。腹。大。刀。自  
身。を。見。る。を。

お贈來モ。大川莊介が首級のう。大田小文吾が刀のう。君命を演來意を示して豊  
実御武が枉死の顛末。御武が奴隸似見人。口状ハ箇様々と眞不告。スム。量累  
片貝殿の沙汰。件の首級ハ小瓶。瓶ハ斬頭様々と眞不告。スム。量累  
來て滞逗一旬。炎暑者酷。折角。既に府内爛の臭氣も。憚る事なれど。  
ねど、王命あれ持參せり。それらの趣左も右も宜く吟えませり。と感懃。演詠。  
首級を斬り一箇の小瓶。那腰刀を恭。晋五あ遞与して又參す。其日退つて石  
濱殿。速尔宣示。主命あれ。返辞。那首の次。不業るべからず。自由の至り。ア  
ム。石濱の使者馬加生。丁田生と共侶。枉死ふ。而て兩所の使。と兼て甘木奉り。那首  
へも贈り。首級も。休遲滞を。ある。且。允。ま。か。ア。晋五。留難。僅。方  
意。僕せ。二郎。邊。伴當。俱。石濱。千葉の城。赴。家臣猿嶋連  
就。君命と演る。通て前條。異。首級を斬り一箇の小瓶。那腰刀を拿。生

志。そ。久。連。遅。与。モ。必。連。ハ。れ。を。受。と。モ。馬。加。御。武。们。枉。死。折。速。報。れ。る。款。び。と。述  
勞。必。且。休。息。志。そ。猛。可。旅。館。宛。行。入。隸。け。酒。飯。薦。也。萩。野。井。二。郎。之。詰。朝。正。廳。ふ。召。ま。千。葉。自。治。見。參。モ。原。是。通  
意。僕。せ。二。郎。邊。伴。當。俱。石。濱。千。葉。の。城。赴。家。臣。猿。嶋。連  
就。君。命。と。演。る。通。て。前。條。異。首。級。を。斬。り。一。箇。の。小。瓶。と。那。腰。刀。を。拿。生  
家。の。使。者。ゑ。ば。告。と。せ。一。儲。ハ。身。れ。ぬ。近。習。の。家。臣。幾。名。族。主。の。後。方。侍。り。す。當。下  
自。治。ハ。先。大。刀。自。の。安。否。と。詰。ね。猿。嶋。連。モ。そ。ひ。ま。す。今。番。岳。安。御。前。よ。遙。贈  
であ。大。田。小。文。吾。慘。順。の。首。級。大。ま。さ。成。腐。爛。と。半。體。多。く。連。們。が。稟。モ。不。あ。  
今。ゆ。実。檢。の。沙。汰。及。空。件。の。大。田。小。文。吾。孤。も。亦。身。年。時。猶。折。え。る。之。の。頸。舊  
ど。ふ。あ。必。鳥。首。志。あ。遠。路。と。炎。暑。氣。の。折。逆。旅。不。慮。の。拒。障。の。東。て。逗。留。す。  
經。づ。ん。ぶ。如。若。う。け。も。あ。以。あ。使。の。過。失。る。じ。が。又。贈。対。一。兩。刀。ハ。昔。年。這。里。あ。紛  
失。を。る。小。絆。落。葉。ハ。あ。い。ま。か。と。馬。加。御。武。が。序。貢。殿。詣。セ。折。鑑。定。を。る。と。京。モ。那  
名。力。の。亡。ト。う。許。ヨ。の。年。歴。一。え。れ。御。武。疎。忽。之。認。違。方。候。あ。る。が。ち。因。贈。ら

是ニ兩刀の返し返一馬をも。片貝殿あれらのト。眞よ空えあづる。又馬加蠅六郎御  
武へ緊要の使ひ立ひ。故き悲人を研葉て。遂ふ又悲人の爲ふ歎されは是不當方  
所為。那折逃る伴當も後れてその期ふある。若黨奴隸も共ふ罪あり。這斐り異  
日ふ沙汰去。帰北の折件のよ。執夷へ通達せられよか。遠路の使本義不まそと懇懃不  
労へ。帰國の暇をあら。齋内二口の刀を乞ひ。返せられ。既て罷歩たる家臣猿嶋  
連們。片貝の執夷由充へ連署の状を遞。執夷へ通達せられよか。遠路の使本義不まそと懇懃不  
主大石兵衛尉憲重。兩管領と長尾景春と。和暉一談あふ。乃者五十子の城ふ  
あり。子息左衛門尉憲儀へ。聊中暑の恙あり。則仁田山晋五と。返答の趣。石濱  
自胤の口狀と異ひ。首級。酷く腐爛して。梶首をうそり。并み贈ら。且。那  
刀。賊上社平が親族。甲して。身をすま。社平が方にあがぼう。裏表の勘定を。庶もて刀を  
返す。其餘の書中。載せられ。執夷は届けぬ。と演て憲儀の自筆。由充ふと

る。簡一封と。件の刀を遞。与。三郎。大塚の城を辞去。伴當を。却。這  
夜の敵。名を。退。に。還。首を宿投。那首を想。と。則。日暮。染月の其音。越  
片貝を。帰着。執夷稻戸由充。御武豊実。们。が。在。死。顛末。石濱大塚。不時回報。  
言詳。小告知。と。大石憲儀の自筆。の。簡。年葉の老黨が連署の状。那返す。有  
三口の刀を。出。て。由充。と。遞。與。登時津衛由充。ハ。刀を。覗。て。書翰。と。被。怪。ひ。べ  
疑。伏。の。ヨヌ。然ら。氣。あ。そ。衣裳。と。更。や。書翰。と。携。え。邊。く。坐。却。老夫  
入。ふ。見。參。と。荻野井二郎。が。か。り。す。石濱。并。大塚。よ。刀。返。され。縛。の。趣。自胤  
憲儀の返答。箇様。々。と。ゆ。え。あ。び。と。二通の書翰。と。金。あ。る。そ。大。刀。自。の。訝。り。有  
つ。り。そ。こ。上。津衛。其首。ゆ。讀。ひ。と。そ。讀。と。ほ。く。ち。聽。首級。の。火。暑。は。傷。翁。の。是。非。及。成  
正。が。那。力。と。相違。と。返。され。ま。本。意。翁。の。顧。の。自。胤。の。れ。ど。那。折。御。武。豊。寒  
よ。も。認。り。生。鑒。定。と。信。る。故。ゆ。質。を。よ。と。增。達。贈。遣。た。ほ。ぞ。疎忽。の。所。利。

忘れぬ。最悔くも恥しき。現馬加御武の落葉の刀を試み。乞見を研て乞見が敷。是鳥許の白物へけむ。淳薄の性を知る。豊実とも亦企。那们が殿され爲体。御宿する。後不出する。少年の乞見。大阪毛野より。石濱にて其頭の詮議。まことに。向て由毛。石濱をも大塚をも。御武豊実が枉死。俱は是不賞の罪也。那折逃る若黨黒奴隸も。後日御沙汰ある下と仰見。行人们の御内の人見。左も右も見る。縦那少年。乞見。大阪毛野。戦国割居今あ。信濃二東北陸南海隈ゆき。所在を涉獵。搦捕せん。と難に所行あ。信濃二東北陸南海隈ゆき。所在を涉獵。搦捕せん。と難に所行あ。東へ。就て昨今世の風声。傳ひ。御誅戮せられる。大川。大田両勇士。眞の莊介小文五事。武者修行を做す。那名を竊そん。歎を渡世の資助をもつ。かの名。故に捕られて。首刎れる。と。世評も云あ。然。而して。猶寔あ。二口の刀を相違を。も理り。かと。実更に。身を誘導せ。大方自守で呆果て。夫の刀をも。莊介も小

文吾も贋物をやう。然その風声。外聞。翁のわざ。召食て。向後。従と慶。返され。二口の刀。再臨見る。忘る。津衛介。取去。又秋野井三郎。今番の計。神妙。矣。然けれど。勞せ。功を。争何せ。の。う。答えて。白井殿。景春。よ。向れ。告げ。あれ。秘めよ。と。耳に示す。と。初由充。諫。折用。ひざし。と。今ゆふ。後悔の色。えつけ。従。由充。宿所。お退。そ。獨竊。思。惟。る。今番。石濱大塚殿。よ。返される。二口の刀。俺。が。翁。比莊介。と。小文吾。贈。り。刀。什。麻。何。の。面。引替て。那。天主。其。身。々。の。方。成。取。ア。走。り。必。是。御。武。們。が。數。それ。折。玉。天主。の。料。ら。も。遭。際。と。四。下。ま。人。代。意。ま。よ。う。而。竊。ふ。言。ち。え。ク。よ。た。ふ。か。一。それ。の。ぞ。刀。金。易。方。欲。裏。小。天主。が。別。す。臨。え。俺。们。は。兩。刀。の。再。も。入。と。あ。が。便。尔。就。て。這。刀。と。返。ま。せ。ん。と。い。ける。と。要。み。に。言。ぞ。と。い。よ。そ。言。と。行。ひ。と。違。ひ。で。這。里。ま。返。され。か。ハ。俺。亦。料。ら。も。老。夫。人。よ。賜。そ。復。俺。が。東。西。不。き。け。ハ。鳴。呼。奇。う。多。奇。け。お。れ。よ。就。でも。二。カ。ー。お。金。大。土。神。物。あ。て。祐。る。の。欲。凡。人。き。う。ぬ。と。知。え。る。の。ま。も。と。ぞ。う。ふ。人。不。告。ぐ。金。玉。あ。ね。ら。

小文吾



口肚くちどに向むかひ腹はらを答こたへ感嘆かんたんの外ほかなりけり。案下某生再説。毛野莊介小文吾も。那日晡時ゆふの比及ひそす青柳の驛しゆ。歇店けつてん不宿ふしゆを投なげ。浴湯よくとう・飯めしをたゞ果たとて圓居えんじす。過去春かうぜんも。らかふ。困談數刻くわんたんおちひる。折おりち宿しゆを俱ともま共とも旅客りょきゃくもまわり。お召めしやに畔は一いつ夜よの糸いとを繰くは奴ぬし婢ひら们みや暇ひまあければ。夕ゆふ饅果まんがてら寄よめ來く。款待態くわんたいたいの疎さうす。太お吉よしこ與よ安やす却きつて。歸かる。小文吾先毛野ものと對たいひ。曩裏むかしす墨田河すみたが別べつ。折手野おりての無なる柴舟しばふね。趕着せんざを貴きら。至いた尽つく水中すいゆう中なか跳と入い。波濤はとうを凌さわて泗しおががる。舟快はやれ竟くわま及およぎ。河か十じより漕こそ。倉くらも。別船べつせんの身みを寓すわせ。料りょうを依よぐ。介あいを遭あつひ。又市川またいちがわの多行德たぎとくの毛野ものを索さひて鎌倉かまくら赴おもす。余後よごも又艱苦がんくを経へて。越後えちごの小千谷こぢやの旅宿りゆしゆ。折莊介おりじょうかいと環わらあす。次園太おん井い磯九郎いそくろうが。暴牛ぬのの酒さけ顛たん。船男ふねの。且壯介ますしやうかいが智勇ちゆうを逞ほす。酒顛たん二并ふたひ。下したの衆賊しゆぞくと。虧金きげんを考かる。又序じゆの大厄だいがく難稻戸なんとう由充ゆくみ好意こういを。死死免めんれ更また。趣おも千葉大夏ちばだいか而て東使とうし御武豈む実じがり。首くびと尾おを一事いつじも漏もさ。説示せつしと。和君わきみを

亦また那折なつ何な處しを投なげて走はらな。這信濃路しなのぢを流落りゆらくひん。盤費ばんひ竭けつ。故ゆゑの欲のぞと向むかひ。毛野ものの頭かしらを掉おとて。俺身わたくしは盤纏ばんらん是いる。故ゆゑの欲のぞが。乞う兒こどの形貌けいめいと寢妻しんめを。翁石おきいし。濱はまの追捕ついぼうを免めんれ。親おやの仇ご讐しゆ縁連えんれんが。所在しろを索さひ爲ためす。曩裏むかしす墨田河すみたがの頭かしら。那柴なしば舟ふな。無なづ。折風おりふう波なみ高く。潮しお快はやければ。舟ふなを返かす。水際みせ立た一いつ和君わきみ。心こころからずふわぬ。勢せいひ既すでにかせ。術じゆみれ。流ながれ儘まことに。艤よ軸じゆと操つかり。走はらな五ご里り。浦うら曲まが舟ふなと捨すて。舊里きゆうり翁おきが相摸さがみ。大阪村おおさかむらを赴おもす。願成院がんじょういんと喚做よす。山寺さんじを住持じゆじの僧そう。俺母わたくしの叔父おじ。翁おきは其里そのを身みを寓すわせ。躲處のぞきる三さん院いんを。諸國しょくこくを巡めぐる。歳としの十一月じゅう某めいの日ひ。住持じゆじの遷化せんかを。中陰ちゆういん闇くろ。這春じゆしんの。下くだめ。寺てらを辭さ。去はて。京師きょうし。雲くも時とき旅宿りゆしゆ。又また入い返か。岐き嶺れい路じゆ。諏訪すわ邊へん露宿ろしゆ。日ひ。弥ま久く。亦また以いす。冤家あんか。面おもてを認にね。環わあ。名な告こ。爲ため。轂わと。轂わと。翁おき。人ひとか。及およ。ざ。心こころ残のこ。

盡と神佛の宣助と祈が成る。是もよもて處々の神社佛閣より毎年祈念を凝  
らるる事。余ふ諏訪の片頭よ籠山と喚做し村あり。寃家の姓氏と相似れべ。あり逸  
東太縁連。苗字の地ふある。店ひくある。更に當否を諏訪の神より祈之。權且那裏  
在けふ。歩ひくへ空示して。歩ひくへ和君們より環會祭の事。毛此彼共ニ一對多。癌と云  
又玉より過世の契と知る。お足れり。然び是が優也。這里は聚令二入の外。局同因  
果の弟兄あり。これらハ什麼誰々。是等の緯の本末眞不知。かひか。となり。并杜介  
膝と拭りて。約ハ八名有。天縁。す。熟せば更方縁。同因果。弟兄ハ和君を加えて。七  
名あり。人々ハ慄々として。信乃道節。現へ親兵衛。皆。の素生本貫出處を詳々説  
示す。任れば。這七名ハ當より異姓の兄弟たゞぐ。俱。より見の家臣。毛。過世事。因縁  
あ。ち。故ハ笛様。や。と。伏姫の自殺。八房の大。金碗入道。大。并。小蟹崎照文の  
山林房。と。姉真沼。文五兵衛の。又濱路の。世四郎。音音カ。尺八。束。多軍節。

身も忠信孝烈節操義俠の行状。各差あれども。よく。活用。良善の良の。貞の。既の。累々傳。  
次第亥系。長談佳話。小文吾も亦語を繼て。そろ足する。神少。言の。垂赤果。直の  
日暮。夜の。暮春。短夜の。更。鐘。火。竹。漏。下。額。鳴。毛。野。連  
ア。感。激。或。哀。或。愁。或。微。笑。或。咳。千態萬状。これ。や。慷慨  
嗟嘆。堪。う。身。摘。知。懷。舊。の。感。涙。眼。包。餘。り。り。

第八回 青柳の歌店小胤智詩歌と題を

穂北の驟雨小礼儀 行裏と喪ふ

登時小文吾又。伏姫。秘密の玉。原是里見治部大輔義實。朝臣の元息  
女。伏姫。上の臨終。毛。衣領。搢。衰。水晶の數珠。毛。の。数。の。八箇の玉。姫上  
富山。不。自。刃。折。光。糞。蜚。颶。往。方。毛。毛。毛。件。の。數。珠。ハ。姫。上。の。尚。少。から  
比。焦。の。毛。よ。役。行。者。の。示。現。毛。是。感。得。の。神。物。毛。就。中。八。顆。の。大。玉。仁。義。礼

智忠信孝悌の八つの文字。もづく見れるよ。墨裏は舊里は在り。時、大法師不避  
近と。あれらの縁故を听知した。伏姫の世を去りあり。長禄一年の秋ふと。今茲文明  
十四年壬寅の夏まで。星霜二十四年と歴る。伏姫は俺们士大夫の未生以前に死なり。  
大法師は當初金碗大輔。方一時。伏姫上と妻せ。と義實思食す。遂に披露  
及ぎ。長禄元年。伏姫富山より。遂に身まろゆ。が金碗生の姫上れ  
藍口提の為。祝髮。法名、大と喚。做。國の八州と行脚。失言王を索ん。飛  
錫。年歷程。今もう五年前。文明十年は夏の比大塚信房。大飼現。某と俱  
三名件の法師と。巣崎生。料。名告。折。大法師の。玉は是俺们。幼稚な  
時。感得する玉事。皆。玉不見れる。文字ふと。知れ。又只這玉の。事。わざ。各  
處。身。患。形牡丹似。那八房の大毛色。類。うさんと。知れ。然れば。そあれ  
同因果。大士八名。あ。伏姫上。大吉の與。過世の母。も。うじ。元縁故。詳。説

諦され。世の大諸侯。大士。必里見殿。仕。元由緒明證。あ。義實御父  
子。あ。賢。愛。明君。誘。安房。相伴。おれ。おれ。折。大江親兵衛  
と。俱。四名の。今うち。這餘の四天士。索巡。そ。具足せ。共。安房へ。赴。里見殿。仕  
あ。え。且。寛。い。ね。と。辞。ひ。て。後。おれ。里見殿。う。賜。る。よ。沙金。と。く。東心。も。う。  
這後大山道節。あ。今。又。和。君。おれ。七。大。士。お。七。人。足。を。ス。大。江。親。兵。衛。山。林。が。獨  
子。老。四。才。あ。秋。七月。神隱。うち。の。う。れ。往。方。も。知。る。ま。う。那。身。不。善。や。下。り。  
其。今。茲。八。才。あ。秋。一。這。存。亡。と。知。る。ま。う。一。箇。足。だ。一。箇。阙。う。何。の。時。不。具。足。せ。ん  
果。一。多。経。世。不。果。一。般。旅。宿。只。ち。お。與。き。を。ど。べ。又。莊。介。も。四。下。を。ま。う。声。と。低。り。大。田。大  
塚。大。飼。が。大。法。師。不。值。偶。せ。折。某。大。石。家。の。獄。舎。は。在。り。程。れ。後。お。嘆。を。夢。た  
ほ。の。僕。而。近。曾。石。采。き。指。月。院。そ。某。も。又。道。節。も。大。法。師。と。巣。崎。十。郎。照。文。か  
く。う。あ。環。會。お。と。お。る。離。合。お。時。ち。遲。速。わ。お。と。久。き。を。モ。大。聿。お。具。足。多く。素。

懷と遂る日暮れを御用へ進退火急を考て玉とぞまづ暇みづて俺们（わたくし）が秘藏の玉（ひきう）へ出  
處各異色也。皆幼稚に時感得をす。子趣（こしゆき）は僕々（わたくし）が母の胎内（おなか）よ。握（いざな）て生れた所（ところ）は大江  
親兵衛（おやひやゑ）のとどを。大江大里（おおえおおさと）の住人（じゆじん）。小文五郎（こもんごろう）最細（さいさい）を。某（それが）は抱持（いだ）る。獨大坂生（おほさかうぶ）の秘藏玉（ひきうぎょく）也。  
是を五郎（ごろう）と詳（くわ）め。そなへ不て浴（よく）ひて。且俺们（わたくし）が秘藏の玉（ひきう）。又せぬ。せぬ。こひ  
を。小文五郎（こもんごろう）と共侶（きょうりよ）。護身囊裏（ごしのうり）の幼解（よしわ）ひ。玉と取ぞむ不渡せ。毛野（けの）へ徐（ゆき）よ兩箇（りふき）は玉（ぎょく）也。  
掌（てのひら）不受（うけ）。鑑光不寄（よせ）。熟視する。現此彼一對也。但其文字同（そな）か。美義秀の字也。  
悌（わい）の字ある。形（かたち）も（も）鮮明（せんめい）。感喜（かんし）。太（おほ）も。先這兩箇の玉（ぎょく）を送（おくり）。遠く衣  
領（きり）と探（さぐ）。そちよう生（うぶ）を一箇の玉（ぎょく）。莊介（しょうかい）と小文五郎（こもんごろう）。迭代（だいて）。互（ひがし）も受（うけ）。又。玉品通（よしわんつう）て異物（いもつ）。奇也。奇也。と歎賞（たんしょう）。視果（しこく）毛野（けの）玉（ぎょく）を  
斂（あつ）め。某（それが）は這玉（なまくらぎょく）。未生以前母親の料奉（りょうぶう）。とゆる。俺母（わたくしのめ）父の側室（そくしつ）也。俺身（わたくし）  
是を送腹（おとくわ）の子（こ）。月滿（つきまつ）。生れ。懷孕既（じ）三稔（さんねん）。栗飯原（くりいはら）家歟絕（ぜつ）。

母の相模の足柄東大坂村（おさかむら）在り。時點燭時候ふ外（ほか）。忽然とて流星生（うきせい）。似る  
一隻の光物（こうもの）。南の方より晃光を渡（わた）。そ隣（となり）る毛野（けの）俺母の懷孕（わいうん）を  
後（あらわ）。吐嗟（とうしゃ）とぞろ駄叫（だきよう）。慌て懷と搔撋（さわぎ）。小大老母草の実（みの）も。溴白の玉（ぎょくしろぎょく）を。  
怪しきが如宿所（しゆしょ）。還（もど）て。又と件の玉（ぎょく）。玉の内（うち）。知智の字也。是人作の東西（とうとう）也。  
さ。ちづく字體（じたい）を做（つく）。と鮮明（せんめい）。小讀（よど）れ。要（う）あるべ。と身（み）を。躰（から）を。鍼匣（しんばこ）を納措（のうそく）。方  
夜初更の左側より母の猛可（もんこ）産の氣（けい）にて。俺身と安ら<sup>（うら）</sup>不<sup>（ふ）</sup>産（うぶ）。尔後玉の來歷（らいり）。母の  
手（て）を寫着（しやき）。玉の共不<sup>（ふ）</sup>俺<sup>（わたくし）</sup>腰着の護身囊裏（ごしのうり）を藏（くら）めたら。稍物情（じょうぶけい）を知（し）。比<sup>（ひ）</sup>緯<sup>（わ</sup>緯<sup>（ひ）</sup>。母親の説示（せつし）。傳（つた）。奇特のあり。寛家馬加常武（かんかまかじょうぶ）が嫌忌（けんき）。怕（おそ）。某を。  
おの子を拾（あつ）て字育（いく）れ。鎌倉不<sup>（ふ）</sup>住（すむ）。梨園の隊（だい）を今<sup>（いま）</sup>ども。既不<sup>（ふ）</sup>復<sup>（ふ）</sup>讐言（しゆげん）。  
志根（しじね）。志根。年十二。父。時。父の諱の一字を取（と）て名を。胤智と命ぜ。所得の玉を見れ  
た。文字を竊<sup>（くわ）</sup>。表せ。大川大田二兄の名乗。玉の文字由来。故と向<sup>（むか）</sup>へ莊介小文

吾ハ共侶少點火頭で通愛元玉見の由來を趣へ異無事。奇へ自他皆異るが、亦是不思議也。王の文字と名ふ命せしハ俺们も亦余あれど、和君と二名のみある。大塚成孝、大山忠興、大飼信道、大江仁、這四名の忠孝仁信各王の文字を取つて、合ひて義兄弟の名號一致の過世の應驗求むべし。一、大奇吉あらじや。と云管稱て已きよ。モ野ひよく感佩し。大川生の両刀と小猿の落葉と名けしも亦是縁故ゆ。然と向ふと莊介少敢云否。這刀の名字は。某の只雪條の両刀とこそ喚。做れ刀の齎ふ家の服章。雪條ありふよろそ。然て草葉家もあり。時小猿落葉と名けり。又小猿の亦是齎の花號。猶雪條と云ふ。落葉の刀の刃尖ふ。此の疵ある。如右名けり。毛野亦感嘆して。考へ差々。あらば落葉の葉。刃の聊。聊落されば落葉と云名けられ。那御武がうぬ白。それを人を研ると。時うとうと四下木葉の零らとあり。誇り。罪多乞丐と欣葉。初御武は誨。

夫の偏と造り。僻良され。奇と好。より這失。尤。正。と。罪。を。殺せ。惡ト。更の報ひ。覲面御武。主僕の三物。その豊実も。其里不命と隕。總て俗子の似而非。推量。其の傍る。錯誤。見くわ。世の胡慮。あるんのと。へバ社人領。て。那們の素。よ。手笛の小人。君子の歯不相。よ足。初和君が。這刀と。争ひ。一舉動。小聊亦似。と。道節。の名方。君父仇。定正主。近。て。數。を。と。要。不。先。が。差。引。ざ。折。某の料。を。も。遭際。あ。刀。を。方。も。復。え。を。道節。と。戰。い。ふ。の。別。れ。ふ。そ。往。方。と。知。る。某。亦。亡。親。の。紀念。哀。と。争。ひ。も。解。は。と。あ。も。返。さ。れ。る。祿。と。云。恰。と。之。思。孝。節。義。の。外。を。安。を。倘。這事。ひ。微。其。異。姓。の。弟。兄。す。と。知。と。略。人。不。等。か。ん。争。ひ。て。和。一。和。と。被。遣。

化の配剤妙手也。此彼似方あるを悉。とらと小文吾うち笑ひて。以てとらのひもせん。身ども  
趣同ドが。信乃現ハグ許哉。其の組轂。又某の山林房八が角船の送恨。初ハ怨敵後も  
親愛日同くして談々。大山坂大川。又ある豈限也。とら莊介もうち微微笑。寔是よ然。  
と志る。登時毛野ハ慨然。且莊介小文吾。不ら對し。二兄あよて既ふ知る。大山生の君父の  
仇。定正主を轂。かくと君と冬を害へ。越松駄一竇門三玉平。這兩敵を轂。捕々  
志致。た。某の馬加常武父子從類を轂。されど父を害せ。逸東太縁連。まぎぬ轂  
ね。一日も心安ら。公事仇。偶遇。て。笑びづけ。御武門を轂。果せば偶然。されば。譬言。唐  
山を張。公が竊盜。本李公が細やうと。ひげ。鄙語。ゆふ。何の日。う縁連。轂。轂を  
治て。父を祭え。方も意心盡。察。うち歎く。莊介小文吾慰。モ。零時耳癡相譚  
な。小文吾。遽く行裏。解。金十両を。庄介と共。併。これを毛野。贈。て。お。す。  
送。宿望。旅宿。盤費。肝要。某の辛。愁。何ん。舟。船費。匱。一か月。勿

論。今日。うち後。ま。影の貌。ふ添。進退。俱。不。よろ。賄。されど。然り。そ。腰  
空く。折々不便。の。あ。ん。あ。と。薄。義。不。く。ど。受。納。め。あ。か。と。ふ。毛野。推。標。示。そ。を。  
度。ま。の。某。も。亦。初。よ。聊。盤。纏。の。貯。あ。る。願。成。院。主。の。迂。化。の。折。俗。縁。あ。の。故。を  
り。又。金。の。送。財。を。る。方。徹。高。も。既。あ。ひ。け。下。形。貌。と。こ。見。不。寢。せ。て。盤。費。竭。方。故。不。あ  
む。の。美。へ。心。安。ら。と。推。辞。と。小。文。吾。莊。介。爲。懇。切。不。推。薦。せ。を。その。説。で。不。え。されど。も  
悔。順。夷。親。の。送。財。あ。又。大。山。道。筋。の。軍。用。の。餘。財。あ。せ。と。分。與。され。も。勘。う。内。里。見。殿  
う。賜。り。い。沙。金。も。年。用。公。果。を。剩。り。あ。日。由。元。の。東。糾。一。金。も。や。う。を。減。と。寡。寡。に。加  
え。是。理。の。當。然。枉。て。這。設。不。隨。ひ。と。連。り。不。諭。と。果。一。き。れ。毛。野。年。下。草。く。業。引。て。件。の  
金。を。受。と。う。も。載。を。收。め。け。當。下。莊。介。又。の。す。甲。斐。の。石。木。す。指。月。院。西。大。法。師。住  
持。う。今。那。里。大。山。道。筋。螢。崎。十一。郎。も。寓。居。せ。り。よ。天。田。と。伴。毛。野。去。り。欲  
も。和。君。共。不。那。里。到。そ。大。大。山。螢。崎。快。對。面。未。の。が。と。誘。か。毛。野。ハ。業。引。を。某。と。も

那人々の心づきが取れぬ。索る仇ふなきある。迭ふ欵言。良友不面會の與甲斐。爰是孝と後ふと義と先ふまの不似ら。の差へ折もあらず。今番尤一ゆすと固辞を小文吾側より。傍のとも理りぬ。今そ冤家縁連の所在と探りぬ。かねて。甲斐赴参。是孝道の虧るあらず。百足の虫は死との後む。倒れず。の助け。是れふ。よろそき。僕。甲斐。赴參。料。が仇の所在と知る。よほど。あつて。よだ。且。庵黨七大夫の里見殿のか考。家臣と。おどる。二世の因縁あり。八犬を。不具足と。俱。安房。赴く日。誰。本より前智元。某们。大塚。大飼。大江。遠餘の一大士。も。索。そ。章。環り。あべ。和君も冤家縁連を。索。ね。本意と。遂。られ。旨。安房。赴く時。と。知。め。遅速の料理が。た。が。の。如。く。事。れ。這處より。石木毛。千里。足。及。路。き。ふ。何。少。數。この。あ。び。一。圓。那。里。卦。卦。と。辭。と。盡。と。説。論。其。毛野。ひ。且。沈吟。じ。里見殿の仁政武徳。伏姫。上の孝烈義侠。の。餘。も。忠臣。義志。節婦。の。那行状。を。傳。ゆ。て。心。裏。恥。を。あ。の。身。の。不肖。親。も。ま。孝。き。友。も。信。を。疎。そ。

サト。金。大士の肩と。負。れ。き。ほ。そ。當。惑。首。尾。両。端。速。勇。決。斷。あ。ぐ。さ。又。再。四。尋。思。て。羽。立。の。朝。用。ふ。誨。を。受。け。い。且。く。等。せ。あ。ね。と。ふ。并。壯。介。諾。急。て。ひ。る。趣。理。ひ。而。要。時。程。と。思。ひ。ふ。夏。の。夜。氣。が。深。す。誘。就。枕。夕。ね。ま。る。あ。る。小。文。吾。も。強。難。て。あ。く。六。相。立。の。う。せ。ん。圖。宅。の。男。女。何。の。間。ふ。臥。房。入。り。独立。日。せ。ま。惱。ま。あれ。が。夜。安。ろ。ひ。ぎ。と。ぞ。ぐ。ふ。二。枚。の。臥。薦。ま。く。用。ひ。吊。緒。引。三。入。て。吊。ひ。六。布。七。布。崩。葱。の。惱。の。色。後。て。八。毛。過。だ。な。曉。ふ。枕。あ。で。程。も。き。を。睡。む。と。就。寝。け。余。程。ま。莊。介。小。文。吾。の。憶。ま。熟。睡。や。未。明。る。も。あ。で。臥。う。と。旅。舎。の。婢。妾。不。喚。覺。ま。れ。駆。た。ま。共。侶。ふ。起。半。ん。と。傍。ぎ。ま。る。大。阪。毛。野。ひ。ま。う。け。他。廁。や。登。さ。う。を。と。坐。ひ。よ。け。れ。掛。念。せ。ま。惱。の。下。と。搔。揚。て。坐。ま。く。と。ま。莊。介。と。喚。と。あ。大。川。生。れ。を。あ。大。阪。が。臥。る。迹。ふ。這。東。西。あ。ざ。よ。く。や。れ。五。兩。包。の。沙。金。き。べ。ち。す。も。是。三。包。あ。と。ふ。小。莊。介。眉。根。と。頰。單。を。原。來。毛。野。ひ。復。難。言。の。宿。念。を。遂。る。毛。毛。單。身。あ。う。ん。と。潛。す。生。て。出。た。方。然。然。學。學。も。這。沙。金。を。送。ま。れ。る。の。本。意。あ。り。ふ。

時程より趕留。小文吾の今後、胸安ふねば、推續にて、遠く臥簾を出で心と手縫縁  
類の這方の建引亮障子。それが數行の文字ある。要である。其侶もち隣り讀頃をせば。  
凝成白露玉未全。環會流離儘自然。やうある甲斐ありとも信濃路ふ。  
危別れゆ山川の水。向ても多毫亂智。件の沙金が相添え。送せ。詩歌と猜寺の三焼  
捨する追蟠火盤の浮炭。とて寫れる。七言一句も二十字も拂ひぬ。滅る字を咸  
鮮うね。あらう通て明る。柱介只顧感唸して。大男何と覺める。現亂智の孝子。  
既過世の因果。悟り。異姓の弟兄八名を。とぞをふ知らぶ。復讐言宿望を。  
果た爲みを。飄然と立去り。その詩歌ふ顯然。約貴をも賤に。父母あらず。  
後ふ兄弟ある。兄弟あて妻子ある。妻子あて子孫ある。あざと孝悌慈愛。并に輕車前  
後。孝の百行の基本と。必後よ走る。忠信仁義も孝より。穩と廣く行べド。胤  
智ある。爰どよど。今俺们と共侶。甲斐の石井ふ卦。大山對面されがと。大足ご足。

主。這里の旅舎は異る。送ふ意中と盡さん。自身が大望ある故。自餘の大士を一  
日も索巡る暇あらず。任界が冤家縁連と。數えて後が後安く。義も盡さん。信も致  
き。折衷が己が志。逢遇離別か拘ま。凝成とあて。圓圓の時を俟んと。あらう。這十  
四言の句中。笠童。凝成白露云々と宣寫せよ。あらう。とく。小文吾點頭。宣足。毛野  
才子。某文辭が疎けれ。然毛野了解せむ。かど。歌のあらう。よく。理ある。と  
勞ひ。既ふて大丈も。交々と結び。も。贈り。金を返せん。原は後。後識る。厚薄の  
友と。眞う。ある。大田生。孰思。が。這金を。送まれる。亦所以也。他と。咱と。義と結び。異姓の兄  
弟。すと。大田生。孰思。が。這金を。送まれる。い。下と。繰返り。嗟く。其不徐。やう。そ。  
然う。大田生。孰思。が。這金を。送まれる。い。下と。繒。然う。金を返へ。又。義と  
破る。憾ある。故。俺们。贈り。金を受納。沙金二包を。送せ。是贈答の礼。と。他  
お。咱。不。餽り。昨宵の金を返す。あらう。沙金。原は。原。是。煉金。よ。と。價廉。れ。這三

志ひそで朝ひ立歩とた杜介ひ。杖をそて障子の文字を拂へ滅て迹もき。徃方も知  
る大阪を。此し捨ても忘れぬ。昨宵の因坐夢見る。覺て悔ひに鬱悒悒胸と峰とす雲  
か。集る甲斐路を投て出でやく杜介と小文吾。這地ホ毛野と相別れ。あちく紫道節ま  
す。既ふ石采の桔月院ふ在ひ。空たの父弟朝涼の垂垂時を充升日ふ。堪  
ぬ酷暑。苦管笠。凌空。俱よ久後。且休題。單表大村大角礼儀。星裏。文明十一年。犬飼  
げん。既ふのをも。現八信道と共侶。自餘の犬士を索んと。居宅を捨故郷を離れ。且鎌倉を封じ。旅  
宿。半月を累ね。かる。些も便り。ゆき。然箱根山とうら踰。伊豆駿河へゆ。遠尾  
勢。美濃近江城下郊外村落を。這里は半年。那里は二月。旅。よ。旅。光明。延。そ。  
免旅。され。權且故郷。かかる。而て。親の墓。ふ詣。且離衣の菩提を吊す。ゆ。び。諸  
國を巡うべ。と尋思。や。恁と現八は相譚。ゆ。現八。听。異議。及。室。あ。處。と。心。

包八十金の答礼ふ。よく相當せ。候てを受て食す。返たれど。義も破だ。智慧勝  
きて。ある。ま。あれの。と。よくせん。や恨む。必要をとふて。と諭せ。小文吾百會を榆く。  
然听て。他ふ脱落。和殿の細注徵。兄弟牆ふ闇。と。詩。似。後悔。お。人。  
矣。か。一。患痴。那大阪が患慮深。石瀬。夜討。折。文。武。至妙。進  
退。及。翁。と。感。せ。と。而て。腹を立てる。ゆ。可笑く。劣れ。と。陪話。せ。杜介含笑。  
人。か。浴。所。や。脅力。大阪和殿。及。室。智計。和殿。大阪。及。室。八行。内中  
ち。智の字の玉。浴。應。驗。の。ま。美。僕。且く度外措。甲斐の石木へ赴く。と。ふ。  
小文吾。然。夢。と。應。遠く縁頬。戸。推開。漱。身。裝。程。一も。至。旅  
舎の婢。立。參。の。來。ゆ。主。立。の。餅。の。早。飯。友。災。又。這里。一箇。缺。二椀。高裝  
飯。味。噌。羹。汁。樹。不。是。三。山。川。の。歌。も。似。方。二。人。前。有。ま。有。昏。餉。の。料。割  
籠。も。俱。受。取。胸。の。憂。也。朦。也。公。之。而。心。よ。包。錢。茶。錢。添。房。債。と。連。与

か。ある年の夏六月の下満より現八と共居み下野真壁の赤岩見る。舊里まづ来て。  
所親の宅を寓居する。實父母養父母及離衣が墳墓の苔を拂ひ香華を向く。  
念誦の時の役を覺え。左右を底程ふ秋もなる。却離衣の三回忌ゆ。辟土返る。  
新道場宿を取次へ経と讀し。這法華經は列り。赤岩大村を町親水六門の饗食  
膳の儲あらえ現八が親糠介夫婦養家見兵衛夫妻の灵も。這時共々祔祭りて大  
村大飼而施主。準備丁寧きれば里人總て感歎して招されも結縁の道俗哉  
百名の徒及びる。緋果て大角又現八と商議をす。その名とて知る大塚大山。大田も東國  
人也。京師よりして西の九州四国不杖を駐む。光阴を送るべもあらず。今番も亦上  
野より武藏下總を徧歷せん。秋和殿のあらぶをと向へ。現八號頭。某も存念慮  
あり。下總の行徳の大忠が故御事あよ。豆裏ふ那里より赴たる小文吾の故御よ還らる。曳す  
單れ節の仕方を。知るより絶てきりかも。既ふて光阴を歴る。那文五兵衛翁母を

去りて家を迹をくろぬ。ゆきひやが便りを浴候。是も亦知り。度を且行  
徳と心當果首途先。今や猶豫する。とて大角諾ひ。二稔以来一大士も。浴  
遇ざれば舊里へ立とう。それと本意もあらず。一日も先へぞぞと應ぜらる。夕赤岩大村  
争所親水六門。遽く別と告ご。その詰日現八と共よ這地へ立去り。時の文明十四  
年。秋九月中旬。朝日ひと短く。朝寒か。夜暑き。只  
腰雨の未をきり。現八も大角も旅宿。熟てのものも少く。且下野宇津宮ふ。五七  
日杖を駐め。彼此とて遊歴。是ち江戸へ赴く。更ふ又行徳ふ。到べと共居ふ。  
やくと入口。一月ある。二日とて未牌の比。武藏州足立郡千住の櫛。程遠く。穂北の  
駿路と過る。折腰雨猛可不降を。笠宿。其家もされば。現八も大角も。菅笠を傾  
け。直奔走り。中よ現八。路の小石足を蹴り。需要時疼痛。勝ざれ。被りをも大角ふ。三町許後れ。どう知ら。大角。不只管ふ。走る程ふ。背よ駄よ。底行



裏の結理解せ。後方より地上六礎と立落する。知らず走る勢ひ。七八間走過へて歩を止めて其方を急まされ。跡より來ゆ。一個の男子が。行裏と櫻櫻懼ひと逃んとせり。大角へ偷兒等と喚き。趕食人とも程。不賊は舊來一ノ木かで忽地路と横なり。河原を投て逃走る。大角は累脱さとく。甚奮地を趕ふ。看官もよき也。當時の千住河の瀬。今と同トかな。這河は是墨田河の枝川あれど。素より率て小流か。千住河の東より。且日は鎌倉より。陸奥のこま。到ふ。田畠在より。川を渡る。千住の石濱。到り。又石濱より墨田河を渡て。須田村より。柳嶋が判り。谷ある。千住今。阿佐谷。全の法事原まで。長寧寺の。江戸。千住。阿佐谷。あれ二四百年前の鎌倉街道。千住。川を橋。千住。以西の本街道。わざ。無下の村落。うつし。知る。今。そと古の地理。論。共。船。契。そ。劍を求る。如く。下。間話休題。余程不偷兒。ハ。京。も連ぶ逃走す。又。河原。よ。到。支党黒多。一個の癖者。最大。斧。衣箱。却て堤。鷦立す。當下件の偷兒。那癖者。遙

尼。哥哥。極と喚き。堤ふ走り登り。大角。此も擬議。甚。喰。偷兒奴。其首。前か。脱。略。命惜く。全裏を返せ。と。馬。足。信。透。走。趕。近。着。成。两个の賊。立。用。合。左。右。糸。采。螺。巻。固。打。競。大角。右。受。左。柱。列。當。修。煉。采。法。惱。懲。而。微。左。右。組。一。個。の。賊。頂。右。脚。程。あ。女。大。角。右。脚。前。の。偷兒。利。金。食。振。拂。郤。合。弗。大。村。の。需。方。袖。城。右。立。足。堤。河。火。跳。入。浮。潛。共。侶。酒。草。頭。蛇。水。涉。不。異。身。瞬。間。前。面。の。岸。千。本。兼。茂。不。子。入。社。方。知。主。不。少。浩。祭。現。八。今。稍。大。村。の。跡。慕。後。走。不。來。程。驟。兩。交。歇。た。登。時。大。角。現。八。う。對。ひ。那。偷兒。の。更。趣。箇。様。々。報。知。件。の。两。個。の。入。世。尊。真。欲。喚。做。言。小。賊。あ。此。彼。共。投。伏。若。研。垂。葉。刀。柄。あ。も。棍。勢。ひ。怕。れ。河。跳。入。

アミ。凶死で俱が逃亡た。余る甘夢行裏。初搔櫻後走て。那倫兒奴が這處へ之  
來あけ。と思ひよ方縦をもふある事。御高二賊と桃子折。蹴落して水ふ沈。欲す  
空へ起き。世の鄙語似ち。危窮の折。も竊倫。賢ひ。通麻栗熟玉と  
爭何せん。只這損失の事。又。襦袴の片袖。曳断離れて。くわくわ。されも亦蹴落  
去。底。疾風あ吹れ。水中へ自然と岳落て。流れ袖。惜ひ。足。もの。くわくわ。  
西の。這衣箱の火家の賊。先も。這裏。時。が。傷。ふ。あ。う。ぐ。是も。亦。何。處。ト。ろ。竊  
取り駆。來。帝。妾。時。卸。と。聰。ひ。ま。う。現。得。失。ハ。皆。時。そ。前。面。不。路。至。這。堤。那。倫。兒。客  
趕。稠。方。甲。斐。今。東西。喪。ひ。主。君。知。及。衣。箱。心。と。も。く。拿。留。め。益。氣。り。と。喰  
く。現。八。然。そ。尉。第。某。先。程。兩。不。追。れ。走。協。と。袋。も。あ。う。ま。て。路。の。小。石。不。足。残

蹴。か。そ。岩。も。後。れ。る。倘。初。より。力。を。發。動。て。件。の。賊。と。捕。捉。る。行。裏。喪。ふ。ま。だ。悔。て  
及。ぬ。と。急。ぐ。切。て。這。衣。箱。の。主。を。索。て。懲。き。と。報。知。一。奔。陰。德。の一。端。あ。る。こ。や。あ。る。と。な。る。を  
大。角。も。空。て。そ。の。談。寔。は。あ。る。下。あ。の。体。這。里。あ。葉。て。や。び。那。倫。兒。们。が。から。來。て。再。駆。す  
走。を。せ。ん。今。咱。が。東。西。喪。ひ。も。人。の。東。西。喪。ひ。も。そ。情。詎。う。異。う。る。竟。某。の。近。村。屋。家  
毎。ふ。よ。と。知。り。と。主。あり。と。ひ。ね。て。來。見。和。殿。足。の。疼。も。あ。る。よ。聰。ひ。と。且。く。等。寺。ひ。孫。  
と。相。譚。果。て。遠。い。堤。と。下。と。せ。折。る。趕。蒐。來。ほ。地方。の。莊。客。の。隊。約。十。名。あ。る。  
す。ふ。く。棒。を。挾。と。勢。い。猛。く。咄。と。嗜。む。既。ふ。近。く。堤。の。頭。ふ。大。角。と。現。ハ。立。在。た。腹。を  
え。出。し。ゆ。く。競。ふ。詫。声。高。く。彼。不。よ。賊。の。首。ふ。を。遣。あ。る。逃。ま。と。罵。り。前。後。争  
ふ。血。氣。の。壯。校。走。ふ。數。多。三。天。士。と。そ。生。き。と。會。る。畢。竟。件。の。衆。人。が。大。角。と。現。金。  
捕。稠。な。筋。と。甚。麼。か。る。故。そ。其。ち。次。の。卷。ふ。解。分。筋。を。聽。終。か。

里見八犬傳第八輯卷之四下套終

○著作堂手集八犬傳第八輯上帙五弓画者筆工刷人目次  
出像畫工 柳川重信

總卷淨書

第一卷

谷

金

川

第二卷

淺

倉

守

剖劍

第三卷

櫻

木

吉

第四卷上

原

喜

知

第四卷下

横

田

守

八犬傳第八輯下帙五弓

卷の五より卷の八の下を引ひて近日賣出ナシタ第一輯より第七輯迄再刷仕込み求覽ナシタ置後

開卷驚奇俠客傳第二集

右第一輯五卷と辰の春より賣出ナシタ第二輯五卷癸巳の春正月迄遅滞出板

近世說美少年錄第四輯

第一輯より第三輯まで十五卷追々皆出板第四輯五卷癸巳の春正月より賣出ナシタ前篇三卷出板後久く中絶の所後篇七卷近未出板

松浦佐用媛石龜錄全書

前後二篇十卷全璧仕へれ求御覽可被下さい

南總里見犬傳第九輯近刻

曲亭翁精著犬傳の一書和漢今昔など稀き妙作あるといふが、卷數も亦大部多く毎輯續則の書肆故あつて考へ遅滞及び賜顧の君子の心をうめびゆきむことよりもかゝらず翁よきて第八輯上下二帙十冊と刊行せり第九輯もわざとさせせりんと遠慮せしむるに因る百回を歩りくへ百八回之局を結ぶるを竟ひ程まことに全編まへ冀く四方の看官ある記と認て隈き未だそぞるが書林文溪堂叢誌

○家傳神女湯めぐらの湯然病の妙業一包代百銅ヒヨウ此の家秘の良方トモアツテ産あらん後ちのめちよ即功ヒヨウとおこすよとあらひきあらか牛のうらヒヨウあらひくヒヨウ紙玉ヒヨウをうち

○精製衣奇應丸ヒヨウ大包代金武朱ヒヨウ中包代金五トヒヨウ小包代五トヒヨウ中包代五トヒヨウ不仕合ヒヨウ

○婦衣ヒヨウの妙業ヒヨウ備ヒヨウふ用ヒヨウてはらひるヒヨウ半包半二兩ヒヨウ

○熊胆黑丸子ヒヨウのい汁ヒヨウひりて丸子ヒヨウ一包代五トヒヨウ

○製茶本家神田明神下四朋町東横丁ヒヨウ滝澤氏ヒヨウ茶賣弘所元留町坂下南側もの向ヒヨウなたさヒヨウ氏

○古今多類の仙人香ヒヨウ一包代百銅ヒヨウ黒あごヒヨウ美香ヒヨウ一包代百銅ヒヨウ龜江戸京橋南ヒヨウ丁目东側角坂本氏

江戸書行

本所松坂町二町目

美濃屋甚三郎

傳馬町二町目

平林庄五郎

丁子屋平兵衛板

京橋水谷町

天保三年歲次壬辰夏五月吉日發行

七

